

平成 23 年度第 2 回診断評価等基準委員会議事録

開催日時：平成 23 年 10 月 20 日 17:00-18:00

開催場所：前橋商工会議所 3 階「アネモネ」

報告事項

1. JOABPEQ、JOACMEQ マニュアル本執筆状況について

笠井委員より「推薦の序」以外の全ての項につき、原稿が期日までに提出されたこと、今後笠井委員が中心となって編集作業を行うことが報告された。「推薦の序」については「菊地臣一理事長が現在多忙を極めるため、紺野委員長が準備してはどうか」との提案があり、了承された。

2. JOACMEQ 国民標準値調査進行状況について

田中委員より、参加 20 施設への資料配付（各施設あたり 20 歳代から 70 歳代および 80 歳以上の 7 階層の男女各 5 名、計 70 名分）が完了している旨が報告された。データ回収期限は年内とし、福井充アドバイザー（大阪市立大学）による解析を経て、2013 年の本学会学術集会での発表を目標とすることが確認された。

3. プロジェクト研究プロトコール進行状況について

（ア）変性すべり症（資料 1）

加藤委員より研究計画「腰椎変性すべり症に対する手術的治療法の有用性に対する JOABPEQ を用いた多施設前向き研究」について説明された。今回は除圧術（内視鏡含む）と固定術の比較を各群 30 例で行うこと、除外基準の 1 つである下肢大関節（股関節、膝関節、足関節）の変形性関節症については「治療中のもの」とすることが確認された。

（イ）変性側弯症

種市委員より、今回の研究計画は「腰椎変性側弯症が健康関連 QOL に及ぼす影響の横断的研究」とすることが報告された。参加施設では全脊柱 X-P を統一された方法で撮影すること、X-P 計測は各施設と種市委員の双方で行うことが確認された。

（ウ）頸椎症

紺野委員より、「（異なる施設の）術者によって頸椎症の手術成績に差があるか」を検討すること、各術者につき 30 例を割り当てること。参加は 4 施設であり既に内諾が得られているので、最終決定した段階で委員会にプロトコールを提出する予定であることが報告された。

審議事項

学会主導研究における研究協力者に対するインセンティブについて（資料 2）

インセンティブの内容は（脊椎脊髄外科）指導医資格申請（更新含む）の際、研究 1 例につき提出症例数 10 例に換算する、評議員応募の際、学会主導研究への参加状況も評価対象とする、ことが確認された。また、報告書の内容と申請の条件（調査人数、担当者が複数いる場合の取り扱いなど）について、書面にて確認された。